

たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

たがさぽのYouTubeチャンネル 開設しました！

たがさぽでは、ホームページ、ブログ、Twitterなどさまざまなウェブ媒体で情報発信をしています。このたび、新しくYouTubeチャンネルを開設しました。

記念すべき第1号は、年齢や障がいの有無などを問わず楽しめる「さをり織り」で自己表現の場をつくっているさをりひろば余暇よかの活動の様子を紹介しています。今後、動画でも団体の紹介や市民活動に役立つ情報を発信していきます。



YouTube

ぜひご覧いただき、
チャンネル登録をお願いします。



ヒント from たがさぽPress

たがさぽのブログから、地域づくりに役立つ記事をご紹介します！

01

2015年3月15日(日)掲載

日曜ブロッグ「万灯会」

02

2020年3月10日(火)掲載

「3.11 検索は応援になる」
～あなたの検索が、東北の復興を後押しする～

03

2021年1月11日(月)掲載

Voice from 3.11
～東日本大震災から10年、
「みなさんの声を、お聞かせください」～



“たがさぽPress”とは？

たがさぽスタッフによるブログ。
興味がわいたら「たがさぽPress」へ！

<https://blog.canpan.info/tagasapo/>



“tag”のアンケートのお願い



今後の誌面づくりの参考にしたいと思いますので、
ぜひご協力をお願いします！
また、以下のような情報もお待ちしております！
○自分たちの団体を取材してほしい
○ユニークな活動や、地域のためにがんばっている団体・人を知っている
○こんな話題を取り上げてほしい



「tag」には、多賀城 (tagajo) の頭3文字、
みんながタッグを組んで地域をつくる、
多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



@tagasapo

たがさぽのツイッターへの
フォローをお願いします！



<https://www.tagasapo.org/>

たがさぽのホームページは
こちらへアクセス！



発行:多賀城市市民活動サポートセンター

〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目25-3
(多賀城市文化センター北隣・上下水道部向かい)

電話:022-368-7745 / FAX:022-309-3706

編集:NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター



ヒト・コト・モノ を届けます

「多賀城発で多賀城着。」

「tag(たっぐ)」は多賀城をもっとよいまちにしていきたい、
社会や地域のために何か活動したいという方を応援するフリーペーパーです。



桜の花とともに、未来へ

植樹参加者からの声

桜のある場所は
みんなが集まれる場所
であり、また集まって
ほしい場所でもある。

桜の花が咲くと
被災した住民の心の癒しに
なり、希望に満ちた
気持ちになる
と思います。

桜は日本の象徴。
まちを桜でいっぱい。
復興に向けて
心はひとつ。



東日本大震災の津波被害が大きかった多賀城市大代地区。
2015年3月、地域のみなさんとNPO法人さくら並木ネットワ
ークの方々が、多賀城東小学校と大代地区公民館に6本の桜の木
を植えました。震災の被害を100年先まで語り継ぎ風化させな
いよう、津波の到達地に桜の木を植樹する同ネットワークの活
動の一環として行われたものです。

中でも多賀城東小学校は、以前から桜の植樹や校庭の整備など
に地域一丸で取り組んでおり、桜の名所として親しまれてきま
した。参加した小学生や地域の方は、復興に願いを込めつつ笑
顔で植樹していたそうです。植えられた桜はまだ花をつけてい
ませんが、成長して花が咲き季節が巡るたびに震災に思いをは
せ、親から子へ、子から孫へ、あの日の記憶を語り継いでいくも
のになるでしょう。

大代地区は公共施設以外にも
19本桜の木が植えられています。



▼ 以前あった木を伐採したところに新たに植えられた桜。花をつけるに
はあと数年。(多賀城東小学校)



紙面がつなぐ 住民と学生のきずな

多賀城の災害公営住宅で配付されている「復興応援団だより」(以下「団だより」)。
すべて学生が企画・作成している情報紙で、手渡しで配られています。発行する復興応援団の想いとは…。

学生が大きな役割を果たす復興応援団

一般社団法人復興応援団は2011年8月に発足。主に被災地で活動しており、南三陸では農業や漁業を通じた復興支援などを行っています。多賀城では災害公営住宅（現在は市営住宅）で料理教室や、住民の方々が企画したイベントのサポートなどもしています。

これらの活動とともに、学生の一部メンバーは2012年より「団だより」を制作してきました。市内のイベントやお店の情報、料理のレシピなどが載っています。学生が配付のために住宅を訪れると、「今、復興応援団の人が来たよ!」と出かけようとする人を引き留めようと声をかける住民の姿もあるそうです。「いつも楽しみにしています」と声が掛かることもあり、住民にとって生活の楽しみの一つとなっているようです。



▲ 左から若佐さん、佐藤さん、田口さん。
「人の輪ができるような紙面づくりをしています」(佐藤さん)
3人で住民の皆さんへ情報と想いを届けます。

住民さんの笑顔がやりがい

「団だより」にこめた想いについて、制作している田口友実さん、佐藤朱夏さん、若佐涼平さんに質問したところ、3人に共通していたのが「住民さん第一」という考え方でした。田口さんは「住民さんのために、復興への想いを途絶えさせないような記事を作りたいです」、若佐さんは「復興に携わる方たちと被災された方たちのつながりを紙面から感じ、住民さんの心の支えになってほしいです」、佐藤さんは「団だよりをみて、一人じゃないことを知ってほしい。団だよりが住民さん同士の会話のキッカケになってもらうのが願いです」と話していました。

市営鶴ヶ谷住宅で暮らす駒林幸雄さんは、「一軒一軒手渡しで配っている姿を見て、感心しています。発行が終わっても、住宅内で行われるイベントなどをぜひ一緒に作っていききたいです」と期待しています。

「団だより」は4月に100号を迎え、9年間の歴史に幕を閉じます。紙一枚では足りないほどの、読んでくれる人を思う気持ちがあふれる「団だより」。なくなっても、住民と学生の交流は続きます。

過去の復興応援団だよりはこちらからも見ることができます!右の二次元バーコードからぜひチェックしてみてください。



▼ 創刊からの2号と最新の2号の表面です。読む人の心が温かくなってほしいという願いから、暖色を多く使用しているそうです。



▲ 創刊号



▲ 2号



▲ 98号



▲ 99号

市民活動はじまりのはじまり

自分の想いを後世に伝えたい...
東日本大震災の被災地の現状を記録し続けた宮城武雄さんの取り組みをご紹介します。



いつの日か、誰かのために被災者が伝える3.11

多賀城市在住のアマチュアカメラマン・宮城武雄さんは、震災の記憶を残し、伝えようと多賀城周辺の被害写真を収めた『3.11を忘れないで〜東日本大震災の痕跡〜』と岩手・宮城・福島で幸いにも生き残った方々の証言を集めた『東日本大震災1000人の被災者が伝える 命を守った1000人の証言』という2冊の記録集を制作しました。

はじめは記録集を作るつもりはなかったという宮城さん。しかし、地域の人たちと話す中で周りが誰も被災のようすを記録しようと考えていないと知り、「ならば自分が」と思ったのがはじまりでした。

記録集づくりはもちろん楽な作業ではなく、取材を依頼しても受け入れてもらえないこともありましたが、それでも「3.11を忘れない、誰かが残さなきゃならない」という想いと、「今やらずにいつやるのか」という言葉が宮城さんを奮い立たせました。

震災のことを伝えたいと考えている人たちにアドバイスはありますか?というスタッフの質問に、宮城さんは「テーマを持つことが大事。将来の人に届けたい自分の想いをしっかり持つ」と話してくれました。

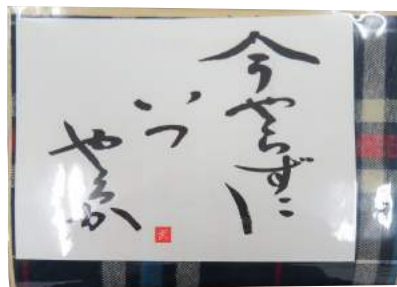
宮城さんの記録集のテーマは「いのち」。今後宮城さんは取材に協力いただいた方へのお礼にまた東北を巡ろうと考えています。皆さんはどんなテーマを未来に届けたいですか?



▲ 宮城さんが撮影した写真です。上に伸びる草花と家屋が印象的です。



▲ 記録集を片手に想いを語る宮城さん。被災した方の話を聞きながら、命を守るためには充実した防災訓練が必要だと感じたそうです。



◀ 宮城さんの手帳にある文字。実は、宮城さんが自分で考え書いたものだそうです。



写真集・記録集はたがさぼ文庫で閲覧可能です!

ほっと一息コーナー



歩いて知ろう 多賀城の歴史遺産

多賀城市史跡案内サークルが2020年の11月に発行した「多賀城旧13か村をめぐる歴史散歩」。このリーフレットは多賀城の旧13か村にある神社や石碑、その土地に眠る普段見過ごしがちな文化財を再発見することができます。暖かくなってきた今こそ、多賀城をもっと知るために歩いて歴史を感じてみませんか。

たがさぼで閲覧可能です。
リーフレットについて、詳しくはこちらから
090-1937-3147 (多賀城市史跡案内サークル:大橋)